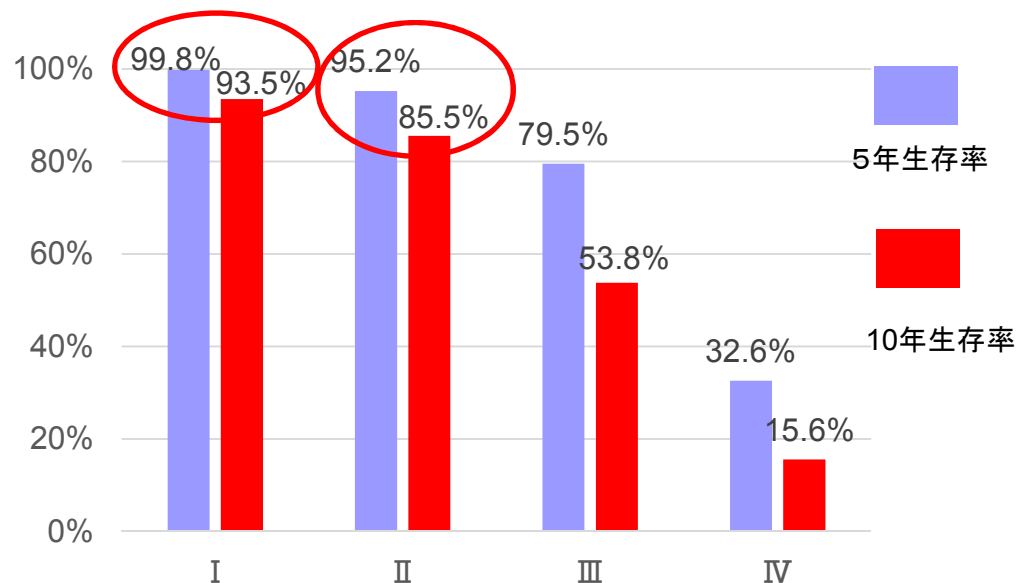


資料2

- 乳がん超音波検査の導入に向けた方向性
- (1) 乳がん超音波検査に関する検討状況
 - (2) 札幌市のこれまでの検討状況

(1) 乳がん超音波検査の検討状況(乳がんの特性)①

ア 乳がんの5年及び10年生存率



【出典：国立がん研究センターがん情報サービス】

⇒ I 期及び II 期の場合、生存率が高い

イ 乳がんの年代別罹患率

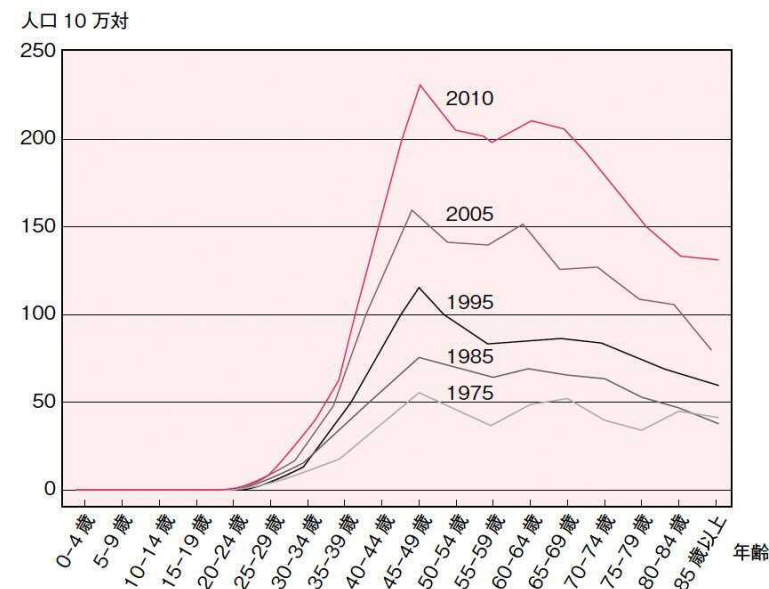


図3 年齢階級別乳癌罹患率の推移

資料：独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター

⇒40代が罹患のピーク

ウ 高濃度乳房の特性

高濃度乳房の女性はマンモグラフィの感度が低下することに加え、日本人は高濃度乳房が約40%と他国より多く、特に40代及び50代に多い

⇒高濃度乳房の受診者に対して、感度を上げる検査方法が求められる

(1) 乳がん超音波検査の検討状況(国の検討状況)②

ア 平成19年開始の「超音波検査による乳がん検診の有効性を検証する比較試験」(J-START)

科学的に最も質の高いランダム化比較試験を用いて、76,196人を対象とした調査を行った結果、マンモグラフィに超音波を加えることで早期乳がんの発見率が約1.5倍に高まることがわかった。

【出展：東北大学大学院医学系研究科】

平成27年9月の検討会中間報告書では、「超音波検査については、特に高濃度乳房者に対して、マンモグラフィと併用した場合、マンモグラフィ単独検査に比べて感度及びがん発見率が優れているという研究結果が得られており、将来的に対策型検診として導入される可能性がある。」と提言されている。

札幌市の見解としては、超音波検査の導入によって死亡率減少効果が確定していないものの、十分期待でき、国においても導入の方向で検討していると捉えていることや乳がんの早期発見に資することから、乳がん超音波検査を導入する方向で検討している。

(1) 乳がん超音波検査の検討状況(他都市の取組)③

	千葉市	京都市	大阪市	堺市	品川区	つくば市
検診間隔	2年に1回	2年に1回	毎年(年度内1回)	2年に1回	2年に1回	2年に1回
対象年齢 (超音波検査)	30歳代	30歳代	30歳代	40歳代の 高濃度乳房 の希望者	40歳代及び 50歳代の 希望者	40歳～64 歳
マンモと併用	無	無	無	有	有	有
自己負担	1,200円	1,300円	1,000円	無料(平成 31年度ま で)	1,000円	3,500円
開始時期	平成19年 度より実施	昭和61年よ り実施	昭和63年よ り実施	平成30年8 月1日より 実施	平成23年 度より実施	平成16年 度より実施
備考				高濃度乳 房は、精中 機構の基 準で判定	研修を受講 した従事者 が検査を実 施	

⇒他都市では、マンモグラフィと併用して超音波検査を導入しているところもある

(2) 超音波検査に関する札幌市のこれまでの検討状況

ア 平成29年度の検討状況(超音波検査の医療評価)

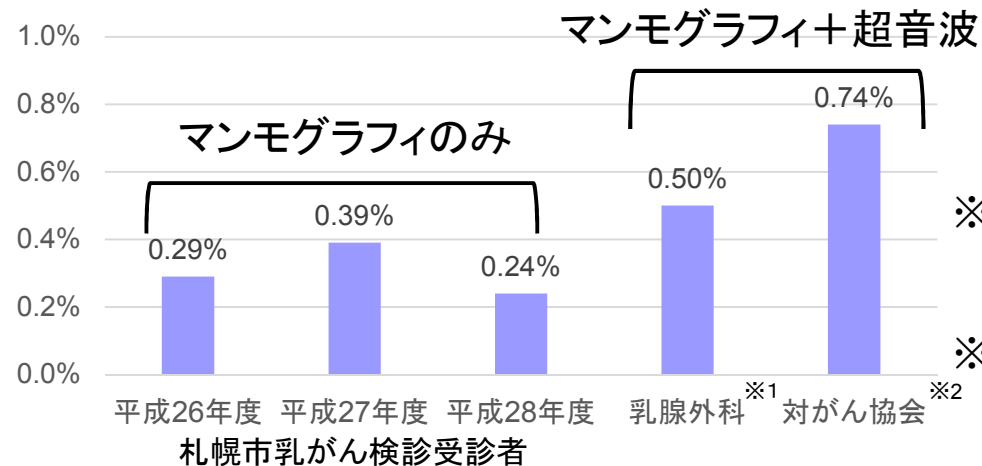
(1) 目的

乳がん検診として超音波検査を付加検査に位置付けた方法について検討する

(2) 対象施設

- ・札幌乳腺外科クリニック
- ・公益財団法人 北海道対がん協会

(3) 主な結果(乳がんの発見率・40代のみ)



⇒マンモグラフィ+超音波の
ほうが、発見率が高い

※1 乳腺外科CLの統計上では、総合判定方式の影響で発生した中間期がんはなかった。
(評価期間：平成25年度～平成29年度)

※2 札幌市以外の市町村や職域検診に関する受診者を含めた数値。
(評価期間：平成26年度～平成29年度)

イ 平成30年度の検討状況(実態調査及び部会の運営)

- ・がん対策部会(乳がん対策)の設置・運営
 - ・札幌市乳がん検診実施医療機関の実態把握のための調査
- ⇒調査結果の詳細は、資料3で説明